教育出版『書道Ⅲ』(書Ⅲ　303)

年間学習指導計画表(例)

月	学習事項		教科書ページ	配当時間	学習目標
	書の美を求めて			適宜	○書の美の要素を理解し，そのよさや美しさを深く味わう心を養う。
4	一　漢字の書の学習	1　甲骨文の鑑賞と臨書	4	6	○甲骨文の鑑賞をとおして歴史的な位置付けや書風を理解する。 ○甲骨文の臨書をとおして，用筆・運筆・結構法を理解する。
		2　金文の鑑賞と臨書	5		○大于鼎の鑑賞をとおして古代文字の用途・文字の成り立ち等について理解を深める。 ○大于鼎の臨書をとおして，金文の用筆・運筆・結構法を習得する。
		3　泰山刻石の鑑賞と臨書	6		○泰山刻石の鑑賞をとおして，小篆成立時の歴史的な背景や端正かつ荘重な書風を理解する。 ○泰山刻石の臨書をとおして，典型的な小篆の用筆・運筆・結構法を習得する。
		4　清代における篆書の展開	7		○清代における篆書の作品の鑑賞をとおして，表現の多様性を理解し，書に対する感性を深め，書を愛好する姿勢を身につける。
5	一　篆書・隷書の学習	5　篆書から隷書へ	8～9	6	○篆書から隷書へと移行する時期の肉筆で書かれた書の鑑賞と臨書をとおして，書体の混在による個性的な表現を習得する。
		6　莱子侯刻石の鑑賞と臨書	10		○莱子侯刻石の鑑賞と臨書をとおして，古隷の典型的な用筆・運筆・結構法を習得する。
		7　漢代木簡の鑑賞と臨書	11		○漢代の木簡の鑑賞と臨書をとおして，肉筆で書かれた書特有の用筆・運筆・結構法を習得する。
		8　張遷碑の鑑賞と臨書	12		○張遷碑の鑑賞と臨書をとおして，古拙にして素朴な書風を理解し，用筆・運筆・結構法を習得する。
		9　隷書の作品の鑑賞と臨書	13		○篆書・隷書で書かれた作品を鑑賞し，表現の多様性を理解し，書に対する感性を深め，書を愛好する姿勢を身に付ける。
6 7	二　草書・行書の学習	1　行書の成立	14	1	○李柏尺牘稿の鑑賞をとおして，初期の行書の歴史的な位置付けについて理解を深める。
		2　書聖王羲之の誕生	15～17	13	○王羲之の書を分析的・総合的に鑑賞し，美の要素を理解する。 ○王羲之の書の繊細かつ大胆な書風を理解し，用筆・運筆・結構法を習得する。
		3　宋代の書の鑑賞と臨書	20～21		○李太白憶旧遊詩巻の鑑賞と臨書をとおして，躍動感に満ちた変幻自在な書風を理解し，用筆・運筆・結構法を習得する。
		4　古典書法の新展開	22～23		○二種の趣の異なる宋代名家の行書作品を鑑賞し，表現が伝統から革新性を帯びる時代の作品を深く味わう。
		5　日本の名筆の鑑賞と臨書	24～25		○三筆の書の鑑賞により日本の書の特徴や表現方法を理解する。 ○三筆の書との比較により三跡の書を鑑賞し，和様の書の美しさや美の要素について理解する。
9	三　楷書の学習	1　元顕儁墓誌銘の鑑賞と臨書	26	2	○元顕儁墓誌銘の鑑賞と臨書をとおして，北魏時代の力強い方筆の書風の運筆・用筆・結構法を習得する。
		2　張即之の書の鑑賞と臨書	27	2	○張即之の書の鑑賞と臨書をとおして，変化の妙を尽くした書風の運筆・用筆・結構法を習得する。
		3　鄭道昭の書の鑑賞と臨書	28～29	2	○鄭道昭の書の鑑賞と臨書の鑑賞と臨書をとおして，特有の文字造形とのびやかで強靭な運筆・用筆・結構法を習得する。
		4　小楷の書の鑑賞と臨書	30～31	2	○小楷の古典を鑑賞し，臨書することにより，小楷表現における字形・全体の構成法等について理解を深める。
10	四　篆刻・刻字の学習	篆刻	32～35	適宜	○古今のさまざまな印を鑑賞し，その章法の妙を味わい，それを自己の作品に生かすことができる。
		1　いろいろな種類の印			
		2　側款の刻り方			○側款の技法について学び，作品に生かすことができる。 ○模刻の意義や方法について理解する。 ○目的や用途の異なる印について理解を深め,印を制作することにより生活に書を生かすことができる。
		刻字		適宜	○刻字が書のひとつのジャンルであることを理解する。
	■漢字の書の制作		36～39	4	○行書・草書の条幅作品を制作し，表現方法を習得する。 ○特定の古典に取り組み，臨書・倣書作品を制作することにより古典の美とその技法を学び，普遍性のある表現力を身に付ける。 ○古典についての研究記録を作成することにより，作品の歴史的背景，書風，表現技法等について総合的な鑑賞をし，幅の広い内容の深い鑑賞ができる。 ○鑑賞会で発表すること，また他者の発表を聞くことにより，自らの鑑賞力を深め，今後の創作活動の糧とする。。

月	学習事項		教科書ページ	配当時間	学習目標
10	二 仮名の書の学習	1 古筆と書写内容 2 古筆の名称 3 古筆の筆者 4 古筆における表現の多様性	42～43	1	○古筆と書写内容との関係について関心を持ち，仮名の書と文学の関係について理解する。 ○さまざまな古筆の名称の由来について理解を深める。 ○古筆における表現の多様性（連綿・散らし書き等）について理解し今後の表現活動に役立てる。
		5 高野切第二種の表現の学習と鑑賞	44～45	2	○高野切第二種の鑑賞をして，書風の特徴を分析的に捉える。 ○高野切第二種の臨書をとおして，上代様の仮名の変化がありかつ典型的な書風について理解を深め，表現技法を高める。
11		6 秋萩帖と良寛	46～47	2	○秋萩帖と良寛の書を題材として，臨書と倣書との関係についての理解を深め，今後の制作活動への一助とする。 ○草仮名で書かれた作品の鑑賞と臨書により，仮名表現の多様性について理解を深め，表現技法を高める。
		7 十五番歌合の表現の学習と鑑賞	48～49	2	○十五番歌合の表現の学習と鑑賞をとおして，草仮名による作品制作における表現の工夫について理解を深める。
		8 関戸本古今集の表現の学習と鑑賞	50～51	2	○関戸本古今集の表現の学習と鑑賞をとおして用筆の変化・流麗な連綿，律動感等について理解をする。 ○関戸本古今集の臨書をすることにより，表現における変化と統一ということに理解を深め，表現できるようにする。
12		9 本阿弥切の表現の学習と鑑賞	52～53	2	○本阿弥切の表現の学習と鑑賞をとおして変化に富んだ用筆・連綿，律動感等について理解をする。 ○本阿弥切の臨書をすることにより，表現における変化と統一ということに理解を深め，表現できるようにする。
		9 仮名の書の創作と作品の鑑賞	54～55	2	○仮名の書の鑑賞をとおして表現の多様性について理解を深めることにより，書に対する感性を高め，書を愛好する心情を養う。
	三 漢字仮名交じりの書の学習	1 現代を記す 2 書と諸文化との関わり 3 現代の新しい表現 ①②	58～59 60～61 62～65	3	○素材をさまざまに工夫しながら自己の表現へ導くことを理解する。 ○紙に書かれた作品以外の表現について，理解をする。 ○現代の漢字仮名交じりの書の表現方法について考える。 ○素材となる言葉と表現方法について考える。
1		5 自分自身の表現を目ざして	66～67	6	○自発的な意図に基づいて，詩文の選定，作品の形式，全体構成，用具・用材の選定，用筆・字形等の工夫をすることができる。 ○漢字仮名交じりの書の制作において，意欲的に取り組み，創造的に表現をしている。
		○口絵折込 ○書道史略年表 ○日本・中国書道史参考地図		適時	○日本・中国の書に興味・関心をもち歴史的な流れを理解する。

※ここに掲げているのは一学期24時間（12週），二学期30時間（15週），三学期6時間（3週）とした60時間を目安としている。